

(旧) 県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期 平成 27 年 2 月

テーマ 県民交流広場の取組みについて

寄稿者 つつじ交流ひろば 代表 三輪剛敏 事務局担当 今井昭夫

つつじが丘小学校区は三田市の西に位置し、昭和 6 2 年に 2700 世帯 10000 人の住宅団地として開発が始まった地域です。三田市立つつじが丘小学校は、ピーク時の生徒数は 1400 人を超え県下のマンモス校でしたが、今日では生徒数が 300 人を切り、余裕教室ができたため、いかに活用するか議論がされました。このようなことから、つつじが丘小学校の余裕教室を活用し、県民交流広場を立ち上げることとなりました。



その際には、地域の多くの活動団体に参加を呼びかけ、つつじが丘小学校はもちろん、藍地区ふれあい活動推進協議会、藍地区老人クラブ、スポーツクラブ 21、青少年健全育成協議会、その他有志の方の協力を得、平成 2 4 年に県民交流広場“つつじ交流ひろば”としてスタートを切ることができました。

現在では、参加団体も 2 5 団体になり、つつじ交流フェスティバル（音楽イベント・作品展）、防災訓練などは地域・自治会を巻き込んだ定例行事になってきました。

また、ふれあいサロン、放課後子ども教室、子育てサロン、囲碁、ヨガ、太極拳、高齢者対象の健康体操教室、おもちゃづくりの会、人形劇、劇団ふるさと等、毎日活発に活動が行われています。

【現在の地域活動】

- つつじが丘団地全体（7自治会）で取り組む夏祭り・新春カーニバル・防災訓練
- 「ボランティア アユート」による高齢者の外出支援（送迎輸送）・生活支援（ゴミ出しなどのちょいボラ）などのボランティア活動
- 子育て支援として子育てママたちのサロン活動、放課後こども教室の開催
- 高齢者ふれあいサロンの開催

【現在抱える課題】

- 自治会加入拒否や退会希望の方もあり、コミュニティの弱体化が懸念される。
- つつじが丘、大川瀬、うぐいすの里それぞれに自主防災組織はあるものの、合同での防災訓練などの連携した取り組みができていない。
- 高齢化が進み10年後にはひとり暮らしや認知症の高齢者が増加することは明らかで、高齢者の居場所づくりや見守り等、地域に求められる課題は大きい。
- 開業医（内科）の院長先生が亡くなられ、つつじが丘地域は、現在、無医村状態。高齢者が困っている。
- 地域の中では多くの方や団体が活動しているが、その情報は地域全体に伝わっていない。

【今後の活動】

地域の皆が集える“つつじ交流ひろば”を拠点として最大限活用し、

- ・地域の活性化と子ども主役の学校と地域住民の一体化
- ・子どもと高齢者の交流の場づくり
- ・防災拠点として活用、“安全で安心な街づくり”
- ・居場所づくり“ふれあい喫茶”、楽しく過ごせる人間関係づくり

を目指して、地域に元気と活力を取り戻し、

地域住民が安心して楽しく過ごせる街、多世代が仲良く交流できる街づくりを実現していきたいと思っています。